



大阪バードフェスティバル**2010** 記念フォーラム

残せるか チュウヒの聖地を 大阪に

2010.11.20 日本野鳥の会大阪

■ 堺第7-3区における2006～2010年のチュウヒの繁殖状況

- ・2006年 2つがいの営巣を確認。
1つがいの繁殖失敗、1つがいの1羽のヒナが巣立ち

大阪で初めての繁殖を確認



▲ 巣とヒナ (約20日齢) 2006.6.20



▲ 巣立ちヒナ 2006.7.18

- ・2007年 2つがいが繁殖行動。1つがいの巣(ヒナ3羽)発見。うち2羽が巣立ち



▲ 巣とヒナ (左約20日齢、右約23日齢) 2007.6.25



▲ 巣立ちヒナ 2007.7.9

- ・2008年 メス1羽のみ記録、繁殖行動確認できず
- ・2009年 1つがいの営巣を確認。1羽のヒナが巣立ち
- ・2010年 4月期調査でメス1羽のみ記録、5月～6月、チュウヒ確認できず

※ ヒナと巣の写真については、営巣状況の確認のために、繁殖に影響を与えないように観音の動き等に細心の注意を払いながら撮影したものを。

堺7-3区 大阪で唯一、チュウヒが繁殖する広大な埋立地
草原や湿地を残し、チュウヒとの共生を・・・

まだ いける

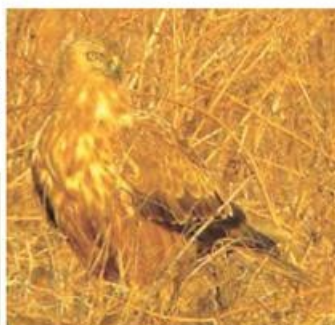


■ チュウヒの暮らしを支える生物の多様性

産業廃棄物処理のためにつくられた埋立地に、今、野鳥をはじめたくさんの生き物がくらしています。草地や湿地を残し、生物の多様性を創出することが絶滅の危機にある鳥たちを守ることにつながります。

いのちは支えあう

2005年以降5年間で確認された野鳥は120種類を超え、チュウヒ以外にも、ツバメドリやコアジサシ、セイタカシギなどの絶滅危惧種が繁殖。またコミシズクやノスリ、ハイイロチュウヒなど10種類もの猛禽類が越冬する局内有数の野鳥生息地となっている。



生物の多様性の創出



写真：左上からキジ、セッカ、オオバン、チュウヒ、カイツブリ、ツバメドリ、コアジサシ、セイタカシギ

チュウヒ保護のための日本野鳥の会大阪の取り組みと保護への課題

- チュウヒの繁殖状況調査、堺第7-3区の鳥類調査を行い、保護のための基礎資料を収集。繁殖地周辺の環境が大きく変わりつつある中、チュウヒの生息・繁殖に赤信号が・・・
- 「共生の森」づくり(植樹事業)が2004年からスタート。湿地部とその周辺は、植樹を行わずに野鳥の生息できる環境を残すことになっているが、その面積は約30haしかなく、チュウヒの生息・繁殖には十分な広さではない。
- チュウヒをはじめとする希少な鳥類の保護のために、堺第7-3区をサンクチュアリ(鳥獣保護区等)として位置づけ、多くの生き物が生息できる多様な草地、湿地環境を創出する。



▲ 堺7-3区の先端部にある芝池 いろいろな水鳥が見られる



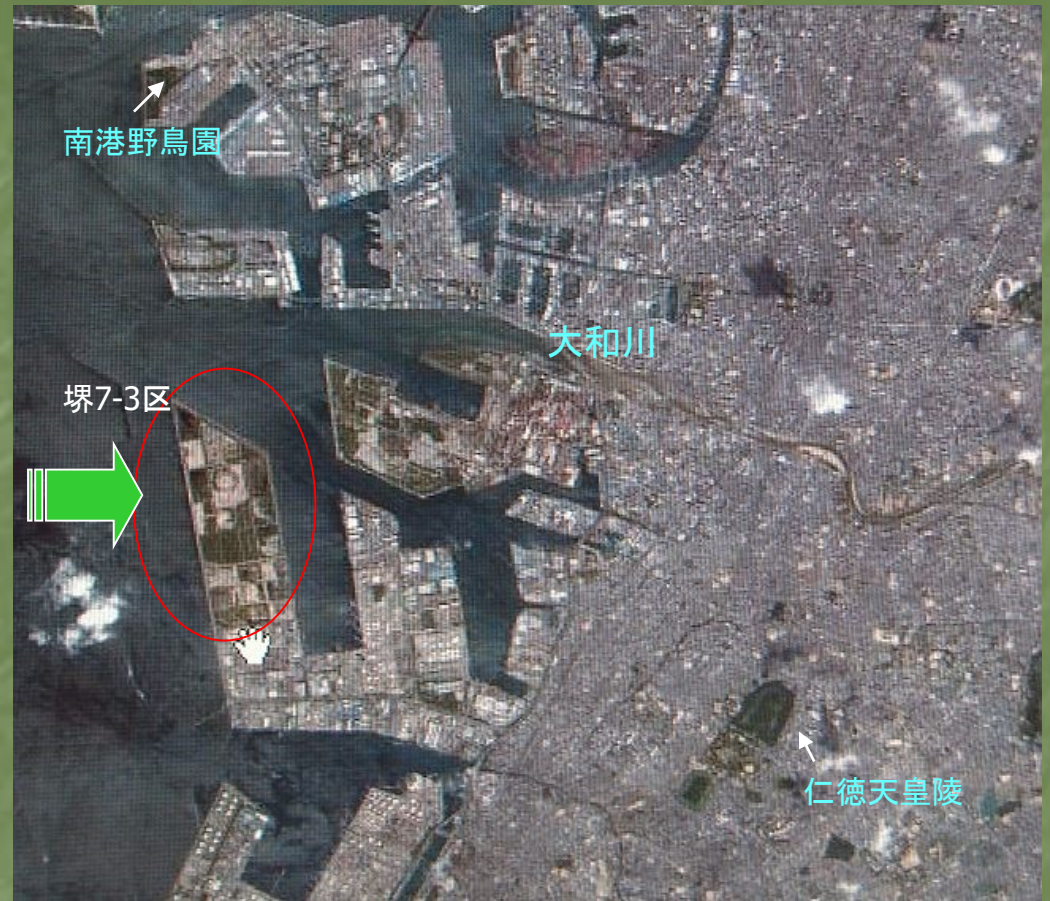
日本野鳥の会 大阪
Osaka Branch, Wild Bird Society of Japan

〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷6-16 NEXT21 1F
TEL06-6766-0055 (火・金AM10～PM6)

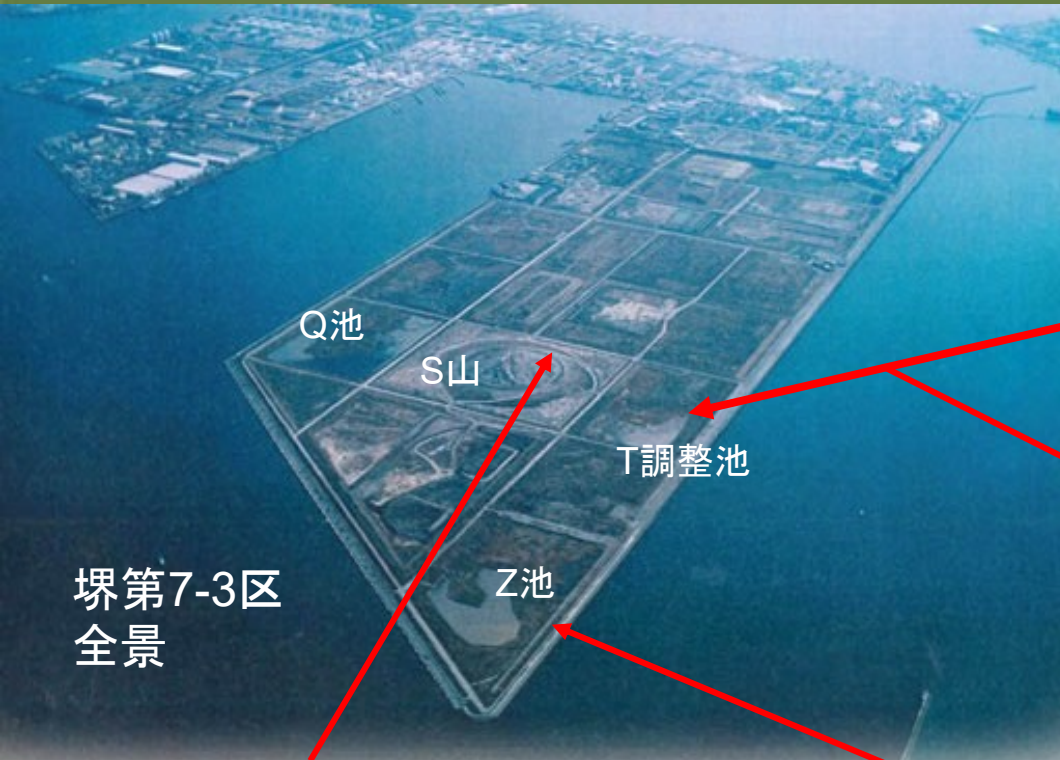
※このパンフレットは、(財)日本野鳥の会の支部活動助成金を活用して作成しました。 2010年7月発行

調査地(堺7-3区)の概要

- 産業廃棄物の広域的総合的処理を目的に1974年以降、1994年までの20年間にわたり面積280ヘクタールに及ぶ海面の埋め立てが行われ造成された土地
- その後2004年までの10年間で、管理型廃棄物と安定型廃棄物による陸上埋立処分が行われてきた
- 裸地から草地への変遷、沈下による湿地の出現などを通じ、チュウヒなどの草原環境を好む野鳥の生息地となっている



7-3区のうち、約100haが「共生の森」として位置づけられ、現在、市民・NPO等の参加による森づくりが2004年よりスタートしている。



堺第7-3区
全景



T調整池 (S山から見たところ)



S山から南を見た景色



Z池からS山を見る

チュウヒ 法などによる位置づけ

- 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律：**指定なし**
- 環境省レッドリスト EN：**絶滅危惧IB類**
- 近畿地区鳥類レッドデータブック
ランク1：**危機的絶滅危惧種**
- 大阪府における保護上重要な野生生物
—大阪府レッドデータブック— 冬鳥として記載
絶滅危惧II類：絶滅の危険が増大している種

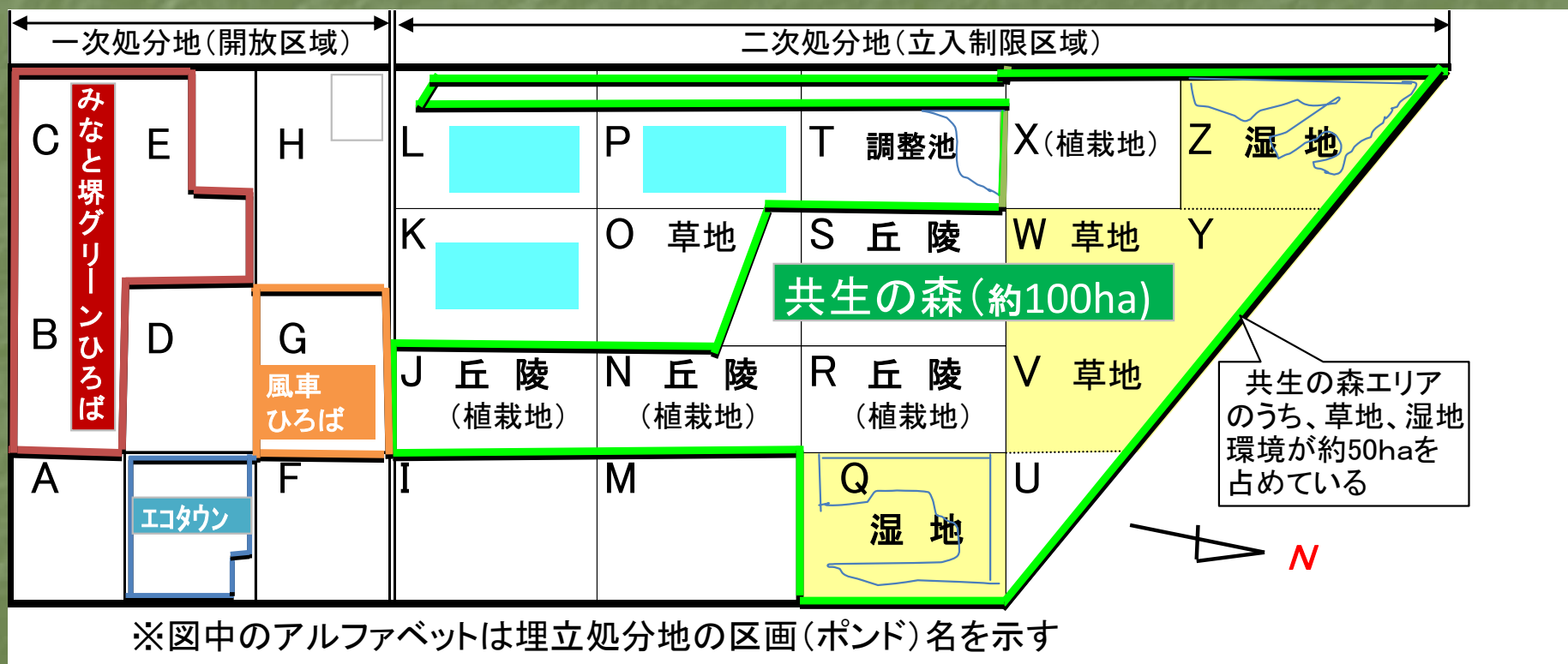



チュウヒとオオタカ



	チュウヒ	オオタカ
全長	♂48cm～♀58cm	♂50cm～♀56cm
翼開長	♂113cm～♀137cm	♂106cm～♀131cm
主な生息地	埋立地(湿地・草原)	里山(平地～山地の林)
環境省レッドリスト	絶滅危惧IB類(EN)	準絶滅危惧(NT)
絶滅のおそれある野生動植物の種の保存に関する法律	指定なし	指定あり
生息数推定(日本)	60つがい程度	1824～2240羽
	イヌワシ650羽、クマタカ1800羽より少ない	増える傾向がみられる

堺第7-3区の土地利用状況



 =メガソーラー発電所 (一部稼動)

堺第7-3区でのチュウヒの繁殖状況

- 1980年代後半まで、数少ない冬鳥として、淀川や南港埋立地などに渡来

- 1988年、堺7-3区埋立地で繁殖行動が確認される

- 2005年、予備調査 巣材運びやつがい間の餌渡しを確認

- 2006年 2つがいの営巣を確認

1つがい繁殖失敗、1つがい1羽のヒナが巣立ち

大阪府内で初めての繁殖確認

- 2007年 2つがいが繁殖行動

1つがいの巣(ヒナ3羽)発見、うち2羽が巣立ち

- 2008年 メス1羽のみ記録、繁殖行動確認できず

- 2009年 1つがいが営巣、1羽のヒナが巣立ち

- 2010年 繁殖行動確認できず

わずか6年の間に、チュウヒの繁殖状況は確実に悪化 …

2005年の調査 (5～7月に3回実施)

5月2日

- ・2つがいの生息を確認
- ・巣材運び、つがい間の餌渡しなどの繁殖行動を観察



2005.5.2 Tポンドつがい 下がメス、上がオス



2005.5.2 (Tポンドつがい) メスの巣材運び



2005.5.2 (Tポンドつがい) 巣の近くでのオスのとまり



2005.5.2 巣があると思われるアシ原の上を飛ぶTポンドつがい



2005.5.2 別つがいのオス 白っぽい個体の飛翔

2006年の調査（5～6月に4回実施）

5月1日

- ・成鳥5羽を同時に確認
- ・3つがいが営巣行動に入っていると考えられる
- ・うち1つがいは、昨年同様Tポンドで営巣の様



つがいのメスの近くにやってきた別つがいのオスを追うためにスピードを上げて目の前を飛んでいったオス

6月 営巣確認調査

2006.6.9

5月に確認していたNポンド
つがいの巣があると思われる
草地に入って営巣確認調
査を実施



背の高いススキの群落の中に巣があった。
卵やヒナの姿なく、放棄されたと思われる。
産座には細かい枯れ草が使われている。

大阪で初めて繁殖を確認

2006.6.20

Tポンドつがいの巣を調整
池内のアシ原の中で発見。
20日齢程度のヒナが1羽
巣の上にいた。



2006.7.18 巢立ち雛を確認



2007年の調査 (月1回、4~7月は月2回実施)



2007.3.29 求愛飛行 上が♂
ネズミをつかんでいる

2007.4.25 ♂の止まり



2007.5.2 ハシボソガラスを追う♂



2007.6.11 巣と3羽の雛を確認



第3子を孵化後5日として、
第2子が孵化後8日、
第1子が孵化後11日齢程度と推定される

2007.6.25 雛は2羽に



第1子 25日齡 推定 , 第2子 22日齡 推定
第3子 おそらく死亡

巣を上から見ると・・・



2007.7.9 巢立ち





▲ 第1子

2007.7.9
巢の近くに
巣立ったヒナを
2羽確認

▼ 第2子



2007.7.21 巣立ち雛を見守る♂



- 2008. 1～3
ケアシノスリが
数羽越冬



チョウゲンボウ





ハヤブサ



ミサゴ

チュウヒの食べ物

ペリットとヒヨドリの食痕



2006.5.1 撮影

カルガモの食痕



5.23 撮影

メガソーラー発電計画

<堺第7-3区太陽光発電所(仮称)>

事業者 : 関西電力(株)

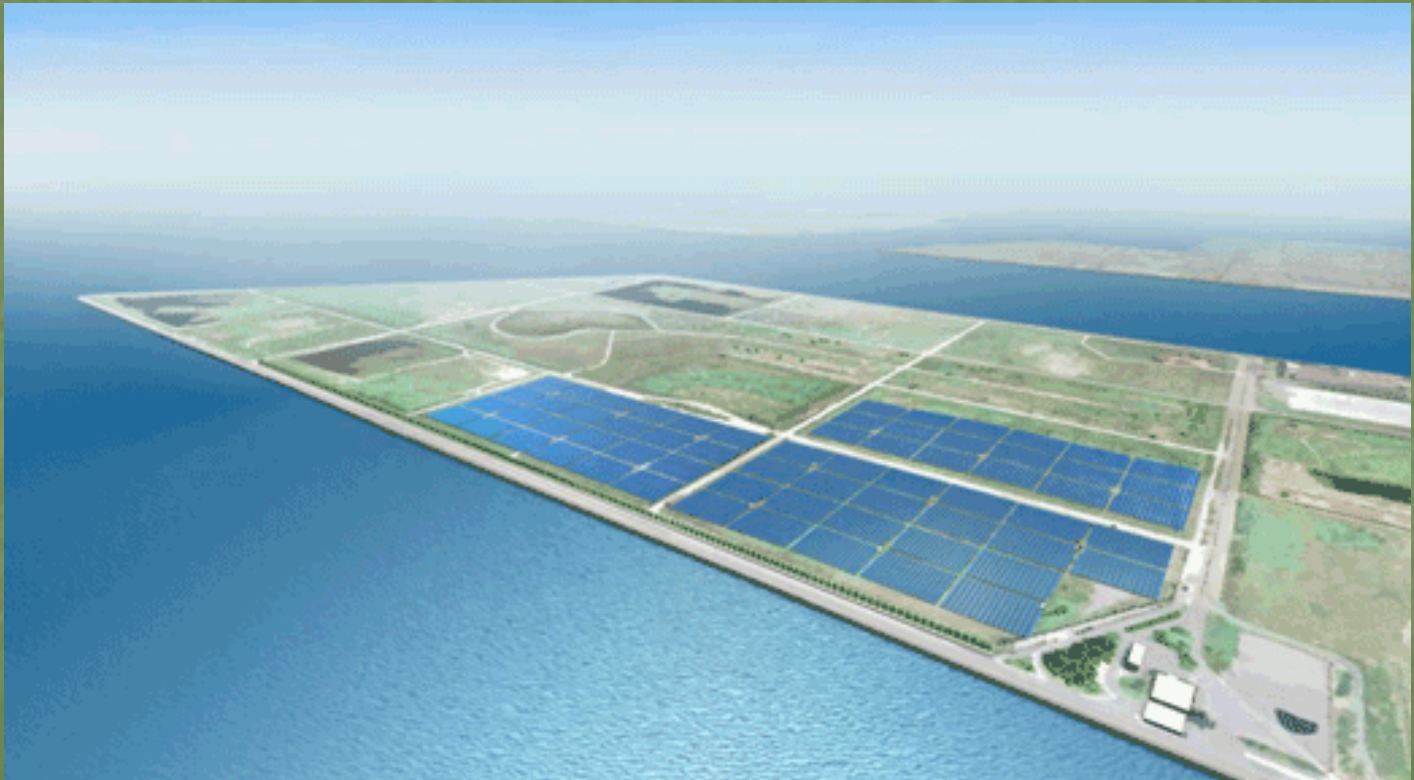
面積: 約20ha 発電出力: 約10MW(約1.0万kW)

発電電力量: 約1,100万kWh/年 設置形態: 陸上設置

総事業費: 約50億円

着工予定: 平成21年度

運転開始予定: 平成23年度



(最終完成予想図)

チュウヒ保護の課題

- 市民やNPO、企業などが参加した「共生の森」づくりが2004年からスタート
- 湿地部とその周辺は、そのまま手をつけずに野鳥の生息できる環境を残すことになっているが、面積は約50haしかなく、チュウヒの生息には不十分
- 今後、「共生の森」の事業の中に、チュウヒの重要性をしっかりと位置づけし、チュウヒの保護のために草地環境の保全を図っていくことが必要
- 堺シャープ工場の建設による餌場(堺2区埋立地)の消失
- 関西電力によるメガソーラー発電所の計画 生息地の大改変



堺第7-3区「共生の森」構想



背景及び必要性

- バイエリア北部の埋立地は公園・緑地の整備が進むものの、海辺の自然生態系復元の観点からは不十分。
- 自然の少ないバイエリアにおいて生き物の生息空間となる大規模な「都市自然」の創出が必要。
- 世界都市大阪として内外に誇り得るシンボリックな「みどり」の創出が必要。



整備方針

- ・ 森に湿地、草地、池などが介在する大規模な「ビオトープエリア」を形成
- ・ NPO、ボランティア等、多様な主体の参画
- ・ 塩害に強い郷土樹種による維持管理コストの軽減
- ・ 苗木から埋立地の環境に馴染ませながら長期的に育成



(仮称)共生の森



堺第7-3区埋立地跡地利用の一部としての「みどり」を創造

効果

- コストを抑えつつ、自然性の高い大規模なみどりを創出
- バイエリアの景観および環境の向上
- 野鳥をはじめ生き物の生息数の増加
- ボランティア活動の活性化
- 世界都市としての大阪のイメージ向上



事業イメージ

- ・ NPO、ボランティア等の手による森づくり活動を主体とし、行政は必要な基盤整備等の活動支援を実施。
- ・ 事業予定地の現状を活かし、シンボリックな森づくりを行なうゾーン、自然の遷移に委ねるゾーンなど、特徴ある整備。
- ・ 将来的にNPO等の自主的な運営へ移行。

■ 事業規模(想定):約100ha

守ろう! チュウヒの聖地
チュウヒに
ご注意!



保護・啓発活動



▲2007.11.4
「はじまりの森」植樹祭の自然観察イベントでチュウヒの保護を訴える

2008.12. 21
野鳥観察会
堺7-3区の野鳥について説明

堺7-3区埋立地の野鳥



ハヤブサ 若鳥



タゲリ



タゲリ



カモの群れ

セイタカシギの繁殖 2006年6月





ケリ



ツバメチドリ



オオバン



アオアシシギ

チュウヒの生息(繁殖)環境を保全するために(提言)

- 生息エリアの確保と多様な草地・湿地環境の創出
 - ・残された湿地環境と草地環境の維持、保全
 - ・植物遷移による森林化を避けるために定期的に草刈や低木の伐採を行う
 - ・ヨシ原の適正な管理を行う。営巣場所として利用可能なヨシ原は、水位調整を人為的に行えるようにする。
 - ・多様な生き物が生息できる環境の創出
Z池、Q池を生き物のあふれるビオトープとする。
池の形状を緩傾斜とし、水鳥の採餌や休息の場として利用できる泥湿地を創出する。



チュウヒのくらしを支える生物の多様性を確保



堺7-3区 大阪で唯一チュウヒが繁殖する広大な埋立地
草原や湿地を残し、チュウヒとの共生を・・・





おわり